

## 脱炭素おおいそ町民会議第4回会議 会議録

### 1. 概要

日時 : 2025年10月26日(日)10:00~16:15

会場 : 大磯町保健センター 2階研修室

参加市民 : 29名(欠席者:5名)10グループを編成

情報提供者(敬称略)

竹村 英明氏(NPO 法人市民電力連絡会 理事長)

中田 理恵(株式会社中田製作所)

松田 泰弘氏(神奈川県脱炭素戦略本部室家庭グループ グループリーダー)

佐野 めぐみ氏(生活クラブ生活協同組合神奈川 副理事長)

八尋 陽子氏(ゼロウェイスト・マルシェ 主催)

西岡 秀三氏(公益財団法人地球環境戦略研究機関 参与)

オダギリ ミホ氏(大磯古道山道つなげ隊 代表)

松浦 治美氏(大磯町環境施策担当 参与)

加藤 洋氏(一般社団法人神奈川県高圧ガス保安協会 副会長)

柳下 正治(一般社団法人環境政策対話研究所 代表理事)

磯崎 清彦(大磯町産業環境部 環境課)

全体ファシリテーター : 徳田 太郎(ユニベルシタスつくば/VOICE and VOTE 代表)

グループファシリテーター : 鈴木 優子、石澤 志津、川瀬 裕子、長谷川 優介、石澤 直樹、鈴木秀頭、高瀬 桃子

主催者 : 実行委員会委員 : 松浦 治美、岡部 幸江、オダギリ ミホ、加藤 洋、半田 志野、八尋 陽子  
大磯町 : 磯崎 清彦 曾根田 晃久(課長)

神奈川県 : 松田 泰弘、稲益 司、佐々木 敬太

事務局 : 稲田 素子 柳下 正治 奥田 英道 三河 純子 運営スタッフ等

### 1. 第4回会議の目的

- ・4つのテーマ(住まい、消費、移動、吸収源)ごとに、グループ対話を行う。
- ・討論に当たっては、まず、それぞれの分野の専門家や実務者による情報提供を受け、その内容を参考としたり、きっかけとして町民目線での話し合いを掘り下げ、対話の結果のとりまとめを行う。
- ・この対話の結果は、次回の会議における「町民提案」のとりまとめの基礎となる。

### 2. 第4回会議の内容

開催日時: 2025年10月26日(日)10:00~16:15

開催場所 : 大磯町健康保健センター研修室(中郡大磯町東小磯191)

時刻	内容
10:00	オリエンテーション、自己紹介
10:15	分野別(住まい・消費) 情報提供、グループ対話①、質疑応答
11:15	休憩
11:25	グループ対話② 分野別グループ対話(住まい・消費)優先テーマ

12:15	グループ対話③ 分野別グループ対話(住まい・消費)②以外のテーマ
12:45	昼食・休憩、移動
13:30	分野別(移動・吸収源) 情報提供・グループ対話④、質疑応答
14:30	休憩
14:40	グループ対話⑤ 分野別グループ対話(移動・吸収源) 優先テーマ
15:30	グループ対話⑥ 分野別グループ対話(移動・吸収源)②以外のテーマ
16:00	全体共有(回遊形式)
16:10	チェックアウト
16:15	アンケート、閉会

※1 16:50 まで放課後タイム(希望者の歓談時間)

(1)オリエンテーション(ユニベルシタスつくば/VOICE and VOTE 代表 徳田太郎氏)、自己紹介

全体ファシリテーターの徳田太郎氏から、全6回の市民会議の趣旨が改めて共有され、併せて第4回の目的について説明があった。第4回では、午前・午後各2分野、合計4分野について専門家の情報提供を受け、グループ対話を行う。参加者は下記のグループ編成で、午前・午後各1つ、計2つの分野で、脱炭素おいそに向けた「町民」、「地域」、「行政」の取り組みを話し合うことが伝えられた。

また、各グループではウォーミングアップとして、参加者が名前と居住地域を伝え、自己紹介を行った。

<注>グループ編成

第3回会議の最後に実施した参加者アンケートで、第4回会議においては4つの分野別対話のうち2つに参加できることとするが、いずれに参加したいか第1希望から第3希望まで記してもらった。

その希望を踏まえ、全員が第1希望の分野に参加し、できる限り第2希望の分野にも参加できるように、事務局において次の通りグループ編成を行った。

午前	I 住まい(第1希望7名を含む)2グループ	II 消費(第1希望8名を含む)3グループ
午後	IV 吸収源(第1希望7名を含む)2グループ	III 移動(第1希望8名を含む)3グループ

また、前回の第3回会議では、4つの分野について、「第4回会議においてこだわって議論をしてみたいテーマ・課題は何か」についてグループ対話を行い、さらに「④で取りまとめられた項目」以外に、脱炭素大磯づくりに関し町民の間で議論すべき課題がないかどうか」などフリーに議論を行った。これらの対話により、分野別に2~3ずつあるグループの優先テーマ(そのグループで最初に取り上げるテーマ等)を確定した上で、これまで会議の過程でこれらのテーマに関心があると思われるメンバーで、出来る限り年齢・性別・地域のバランスがとれるようにグループを編成した。

午前	グループ	優先テーマ	グループ	優先テーマ
	住まい①	太陽光パネル、再エネ電力等	消費①	消費行動と脱炭素
	住まい②	断熱リフォーム、エコライフ等	消費②	食と脱炭素
			消費③	廃棄物・循環社会
午後	グループ	優先テーマ	グループ	優先テーマ
	移動①	次世代自動車(EV)	吸収源①	森林・里山保全等
	移動②	公共交通等	吸収源②	ブルーカーボン等

	移動③	徒歩・自動車等		
--	-----	---------	--	--

## (2) 分野別（住まい・消費） 情報提供、グループ対話①、質疑応答

午前中には、住まい・消費の二つの分野について、専門家・実務者の情報提供を受けた後、グループ対話①で質問を作成し、質疑応答を行なった。I「住まい」、II「消費」についての内容は、以下の通りである。

### I 住まい

#### I-1 情報提供

##### ① 「太陽光発電について」 竹村英明氏（NPO 法人市民電力連絡会 理事長）

太陽光発電の設置に関する費用の詳細や収支計算などの情報提供が行われた。

また、後半では、再エネに切り替える際、本当に環境によい電力であるかどうかの判断基準となる情報として、電気料金の内訳、非化石証書の活用と問題点などについての詳細な説明が行われた。

##### ② 「じぶんでできる、みんなでやろう住まいの断熱」 中田理恵（株式会社中田製作所）

住宅建築の観点から断熱についての情報提供があった。日本が大量の石油などのエネルギーを海外から輸入しているものの、そのうちの多くが気密の低い建物の中で「無駄熱」として浪費されていることを共有し、断熱の重要性を説いた。ドイツのパッシブハウスなどの断熱・気密の基準が紹介され、日本で設定された新基準との比較を行った。古民家の改修で行う断熱についても実践例からの紹介が行われた。

##### ③ 「0円ソーラーについて」 松田泰弘氏（神奈川県脱炭素戦略本部室家庭グループ グループリーダー）

再エネに切り替える際の選択肢の一つとして、神奈川県が民間事業者に助成を行っている0円ソーラーの説明が行われた。初期費用が無償となることに合わせ、リース料や譲渡、契約プランごとの仕組みを共有、費用負担シミュレーションも紹介された。加えて、ソーラー発電以外でも住宅で実践できる省エネルギー化の例の共有も行われた。

#### I-2 質疑応答

テーマ	質問( )は回答者
再エネ	<p>➤ 再エネ契約は個人家庭で可能か？(竹村) 一般家庭で、契約することが可能。ただ、再エネを売ってる新電力だということを調べないとわからないので、その電力会社がどんな電源で、どこの発電所の電気かということを調べる必要は出てくる。</p> <p>➤ 太陽光パネル:P5の資料で蓄電池の費用は入っていますか？(竹村) およそ1kWh(1キロワット/アワー)のものが10万円程度の価格。そのため、もし5kWhの蓄電池であれば50万円程度。そこに加えて工事費が20-30万かかる。注意点として、蓄電池は電気を生むものではないので、富は生まない。夜も再エネの電気を使えることや、災害時に使用できるという部分での自分の満足のために使えるもの。あったら儲かるものではないという点を承知していただきたい。</p> <p>➤ 非化石証明書の購入の問題点がなぜ放置されているのか？(竹村) 非化石証書の生い立ちによるもの。本当であれば「再生可能エネルギーの価値証書」という</p>

	<p>必要があるが、実際は、原子力発電などによって作られた電気の「CO<sub>2</sub>を出さない価値」も含まれてしまっている。現状まだいろいろな制度が歪んでいるので、指摘していった正すことには時間がかかる。来年環境価値の排出量取引という制度が日本で始まる。それと、現在の環境価値の制度が合致していないので、この1年で急ピッチで調整されていくのではないかと個人的に思っている。</p> <p>➤ 再エネが高く見える分を補助・負担はできない?(竹村) 政府がやってほしい分野ではあるが、期待はできない。現時点では自分の地球温暖化に対する貢献として個人がやるしかない状況。</p>
0円ソーラー	<p>➤ 0円ソーラーは30年で100万円近くお得とあるが、FIT 終了後の買い取り価格低下も含まれた計算ですか?これがスタンダードな計算であればすごいです(神奈川脱炭素戦略室のメンバーはすべて0円ソーラーやっていますか)。(神奈川県・松田)</p> <p>➤ 0円ソーラーと買取りソーラーの違いについて知りたい。どのくらい金額が違うかを具体的に説明してほしい。(神奈川県・松田)</p> <p>リースなので1.5倍支払っていると考えて。毎月のお金で清算されるのと、売電収入でどちらが得と考えられるか。FIT の制度は10年で下がるというシミュレーション。ただしシミュレーションなので、各家庭の電気の作り方によって差が出る。また、こちらは神奈川県の補助金を使用した場合という計算になっているので注意。</p> <p>神奈川脱炭素戦略室メンバーが0円ソーラーをやっているかはわからない。自分自身はマンションに住んでいるので0円ソーラーをやっていない。</p>
断熱リフォーム	<p>➤ 既存住宅でできる断熱について(ex.二重サッシなど)効果など知りたい。やれることは?等級6にすることはできるのか?(中田)</p> <p>既存住宅気に対する補助金がお得。窓のコーキングに最大20万の補助金が出る。この補助金を利用して等級を6にした既存住宅があるが、全体で窓改修のみで300万うち補助金100万の改修だった。断熱の優先順位が一番高いのは窓。熱の出入りは6割が窓と大学の分析した論文にでている。</p> <p>➤ 国の補助金は、等級ごとに費用は変わるのか?(中田)</p> <p>➤ 断熱に係る費用は?資料に書かれていませんでした(補助金も含め)。(中田)</p> <p>国の補助金としては、住宅省エネキャンペーンというものがある。新築への補助金は予約するもので、今年度の予算分は埋まっているが来年度も同じ補助金が出るはず。新しい ZEH 基準が来年できるといったが、もしかすると来年は等級によって金額が変わるかもしれない。現在は等級5が ZEH。</p> <p>➤ 自分の家の断熱レベルを調べる方法は?どの程度なのかわからないため(中田)。</p> <p>もし設計されたときの図面が残っていてそこに断熱材の種類と何ミリ使用したかが確認できれば、簡易計算はすることができる。実際は家の形を含め計算するのが正確な測り方だが。検索すると簡易的にはできる。工務店が情報提供としてあげているものなどがある</p>

## II 消費

### II-1 情報提供

- ① 「消費者として生産から廃棄までを意識し 責任を持った生活を」

佐野めぐみ氏(生活クラブ生活協同組合神奈川 副理事長)

佐野氏より、生活クラブ生協が行う活動を中心に、消費者として生産から廃棄までを意識した責任をもった行動を実践する方法について情報提供があった。一般市民の消費者である組合員の発議から始まった生活クラブの自発的な取組みを共有し、市民ができることから取組み仲間を増やしていくこと、同時に行政への働き掛けも行うことが大事だと述べた。

② 「大磯町で実践できる「5R」の取組み」 八尋陽子氏(ゼロウェイスト・マルシェ主催)

八尋氏より、大磯町で実践できる「5R」の取組みとして、REFUSE(断る)、REDUCE(削減)、REUSE(再利用)、RECYCLE(再資源化)、ROT(堆肥化)の具体的な実践の紹介があった。「ゼロウェイストチャレンジ」として、大磯の町の中で今すぐ実践できる具体的な行動の共有も行われた。

II-2 質疑応答

テーマ	質問( )は回答者
消費	<p>➤ 神奈川以外の他地域での生協の活動に違いなどはあるか?(佐野) 生活クラブは北海道から滋賀まである。神奈川の中では湘南地域もやっているし大磯も多い。店舗は22店舗県内に。シャンプーなどの量り売りをしている。生活クラブは東京から広がったので、東京・神奈川はかなり活動が活発。市民が発議して色々していることもある。地域ごとの特色がある。</p> <p>➤ フードバンクに運ぶ際に一括して運んでくれる仕組みはあるのか(佐野) イトーヨーカドーなど、Boxがおいてあるところがあればそこにに入れて、そこから事業者が持っている流通網で、現地に運ぶことがある。生活クラブも店舗や配達の時に出してもらい、それを一括して運ぶことをしている。もらうときは、中継ポイントがあり、そこまで取りに行き、それから配るということをしている。個人でやるのは難しいが、私たちもチームを組んで誰が取りに行く、誰が仕分けをするといったことを分担している。</p> <p>➤ 大磯でフードドライブに関する情報は出ている?(生協に入らなければ見れないのか?)(佐野) 大磯のことはあまりわからないが、生協に入らなければいけないわけではないが、入ってしまえば生協にすでにあるシステムや情報を利用することができるメリットはある。生協に入らなくても、検索してみるとフードドライブに提携している事業者などが見つけられるはず。フードドライブの箱が置いてあったりする。大磯町役場でも1月にあるようなので調べてみてほしい。</p>
5Rの取組み	<p>➤ 車ならプラスチックトレイなどを回収ボックスに持参することはできるが、徒歩の場合や体力がない時は持っていくことができない。そういった余裕と体力がない場合は?(八尋) 無理しないことが大事だと考えている。こうしないといけない、と決めてしまうと続かない。できないときは無理せず、町のごみ回収に出すので良いのでは。</p> <p>➤ 情報提供でごみの削減で「半年に一回」というのに驚いた。何人家族なのか?リサイクルボックス等を使用して実現したのか?(八尋) 2人家族。家族も昔はたくさん買ってきて、ごみも多かったが、私が楽しそうにやっているのを見て、一緒にごみを出さない工夫をするようになった。情報提供の資料の三角のリストを上から順番に取り組み、どうしてもゴミが出た場合はリサイクルをする。どうしてもゴミになってしま</p>

	<p>うものに関してはリサイクルできるものを選ぶ、というやり方で実践している。</p> <p>➤ リサイクルするものを回収に出すまで、せまい台所の場合、どこにどうためればいいのか？(八尋) ヤオコーの自転車置き場の前に回収ボックスがおいてある。買い物に持参するマイバックの中にプラごみなどをいれて持っていき、買い物のついでに捨てている人が多い。例えば、台所以外で、玄関にマイバックをかけておき、その中に入れておくような方法もいいかもしれない。</p> <p>➤ しまむらストア、ヤオコー、ほっこり、これら以外にもやっているところある？一覧など情報発信されている？(八尋) 自分で行って知ることが多い。そういった一覧は知ってる限りでは存在しないので、あると便利だと思う。</p> <p>➤ 量り売りをしていること自体知られていない。なぜか？(八尋) 自分から聞いて情報収集をしている。主催するゼロウェイストマルシェで友人から情報を得ることが多い。</p> <p>➤ リユースするものを集める仕組みはある？(個人宅前の take free 以外に) (八尋回答)ゼロウェイストマルシェでは、もってきたものをご自由にどうぞという取り組みはしているが、大規模なものはやっていない。個人でも一人が始めると周りがいいなと思って広がっていくことがあると思う。 (佐野回答)おさがり交換会とっていらぬ子供服の洋服を交換する取り組みは幼稚園などに呼びかけをしたりすると若い方があつまる。ファイバーリサイクル。いらぬものを寄付してもらい、大型版でほしいひとを募集して、なにかもってきたら何か持って行く。または10円などで売ったりする。再利用の取り組みが可能。そういう取り組みを個人でやるのもいいし、町のお祭りなどに持ち込むのもいいかもしれない。</p>
--	--

### (3) グループ対話② 分野別グループ対話(住まい・消費)

休憩をはさんで、「住まい」分野2、「消費」分野3グループ、合計5グループでグループ討議②を行った。グループファシリテーターの進行で、グループ対話②では、優先テーマ(そのグループで最初に取り上げるテーマ等)について、町民の取組み、それを補強する地域(団体・事業者等)の取組み、それらを支える/後押しする行政の取組みについて検討を行い、対話の内容を付箋に書き、模造紙に貼付していった。

### (4) グループ対話③ 分野別グループ対話(住まい・消費)

続いてグループ対話③では、グループ対話②と同じグループで、優先テーマ以外のテーマ1~2つについて、同様に「町民」「地域」「行政」の取組みについて話し合い、模造紙に付箋で内容を記録した。

### (5) グループ対話④ 分野別グループ対話(移動・吸収源)

参加者は昼食をとり、休憩の間に午後の分野別・テーマ別グループへと席を移動した。午後には、移動・吸収源の2分野について、専門家・実務者の情報提供を受け、グループ対話④で質問作成、質疑応答を行なった。Ⅲ「移動」、Ⅳ「吸収源」についての内容は、以下に示す。

## Ⅲ 移動

### Ⅲ-1 情報提供

#### ① 「脱炭素おおいその実現に向けて「移動」問題を考える」

柳下 正治（一般社団法人環境政策対話研究所 代表理事）

脱炭素おおいその実現に向けた「移動」問題について、大磯町および神奈川県が掲げる交通に関連する脱炭素戦略および、大磯町の町民の移動手段についての共有を行った。また、移動分野の脱炭素化にどう取り組むかについて、電気自動車、公共交通機関、徒歩・自転車利用の促進の観点から情報提供を行った。

#### ② 「大磯町の地域公共交通について」 磯崎 清彦氏（大磯町産業環境部 環境課）

大磯町の公共交通空白地域に対しての行政の具体的な取り組みの共有が行われた。補助路線バス、予約型乗合タクシーについての詳細や利用実績の共有があった。最後に、大磯町が目指している方針として、地域公共交通計画として掲げられている具体的目標などが共有された。

### Ⅲ-2 質疑応答

テーマ	質問
「移動」問題	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ バス利用促進の補助金はないのか？（シニア以外も自家用車からバス利用に切り替えるために）（磯崎） 現在存在する「かなちゃん手形」は神奈中の独自事業。それ以外で町が何かをやるのは今後あり得る。既存の交通の利用を促すという計画の中で、シニア以外へのそういった補助金のアイディアは出ている状況。</li> <li>➤ 県で電気自動車購入の補助が「個人」に適用されていないのはなぜ？いつかは個人も対象になる？（柳下） すでに国による個人に対しての補助が最大85万円出ているので、県からは補助がないと考えられる。今は充電設備のほうに力を入れている。</li> <li>➤ EVの活用でのシニアカーの導入は、ご高齢の方の免許返納により、結果的にガソリン車を減らすことを提案しました。シニアカーではなく、車道を走る特定原付でもいいと思います。（柳下） 高齢社会で公共交通や自動車の運転が難しくなった地域において、どのような移動体制を作るかという一つの大きな課題。もう一度そういった議論をぜひしていただきたい。次のテーマ設定でやっていただくことも可能。</li> </ul>
大磯の地域公共交通	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 大磯での電動バイク、自転車補助制度はないのか？（磯崎） 現状ではない。ただ、現状施策として検討する範囲内のことである。この町民会議もそういった検討内容を決めるための取り組みの一つなので、会議の最後のアクションプランにもし入っていれば施策の議論に入れやすくなるだろう。</li> <li>➤ レンタサイクルの仕組み。大磯ではなぜ導入しない？（磯崎） 民間業者のHello Cycleと連携して増やしている。そこが普及してくれば町内でも増えていくだろう。</li> <li>➤ 乗り合いタクシーの対象地区はなぜここだけなの？今後ほかの地区も実施するよていはある</li> </ul>

	<p>か。または利用希望の要望はあるか？(磯崎)</p> <p>情報提供でお話した駅とバス停の半径の話に関連している。人が住んでいる範囲でその半径に含まれない地域を「交通不便地域対策」として乗り合いタクシーを始めた。ほかの地域の実施予定としては、「交通不便地域」とは別の課題として、高齢者対策としてどうしていくかという議論となるが、今後行われていく。利用の希望は寄せられるが、交通不便地域ではないので、別の課題として取り組んでいく。</p> <p>➤ 乗り合いタクシーは一人でも乗れるのか？時間など、システムを知りたい。(磯崎)</p> <p>利用負担額500円が一人で乗ったときの利用料。時間は8時から18時の30分間隔で30分前までに予約。初めの8時の予約については前日までに入れる必要がある。</p> <p>➤ 富士見地区の補助路線バスに市民病院行きの帰りの便がないが、それはどうしているのか？不便では？(磯崎)</p> <p>実際懸念としては出たが、神奈中のドライバーの休憩時間などの必須条件を考慮すると帰りの便は用意できなかった。</p>
--	--

#### IV 吸収源

##### IV-1 情報提供

###### ① 地域脱炭素計画における吸収手法 西岡秀三氏(公益財団法人地球環境戦略研究機関 参与)

西岡氏より、地域脱炭素計画における吸収手法について情報共有があった。吸収は、排出削減と並んで長期的に不可欠な要素であり、自然吸収による「蓄積」の意義や、吸収手法の評価(ポテンシャル・技術的成熟度・コスト)について説明があった。また、吸収を重視しつつも、自然環境の保全や地域資源の持続的な活用を両立させる視点が求められる、との指摘があった。

###### ② 大磯古道山道つなげ隊 オダギリ ミホ氏(大磯古道山道つなげ隊 代表)

古道山道つなげ隊の活動目的、具体的な活動内容およびその効果の情報提供が行われた。また、つなげ隊への参加をきっかけに、活動外でも参加メンバーそれぞれが森や環境を守る活動を行うようになったり、つなげ隊で出会った仲間同士で新たな環境保全活動を始めたという報告もなされた。大磯の森で活動する他団体の紹介をするとともに、大磯の自然を守る活動への参加を呼びかけた。

###### ③ ブルーカーボンについて その基本的な考え方と県内の取り組み事例

松浦 治美氏()

加藤 洋氏(脱炭素おおいそ町民会議 実行委員会委員)

松田 泰弘氏(神奈川県環境農政局脱炭素戦略本部室)

加藤氏、松浦氏、松田氏より、海の中で二酸化炭素を吸収する吸収源となるブルーカーボンについて、基本的な説明が行われた。次に、日本におけるブルーカーボン吸収量や、国としての「地球温暖化対策計画」におけるブルーカーボンについての方針等を共有。神奈川県内のブルーカーボンの取り組み事例の紹介として、三浦市等の取り組みを紹介するとともに、大磯で実践できるブルーカーボンの取り組み方法についての検討および、具体的な方法の共有を行った。

##### IV-2 質疑応答

テーマ	質問
-----	----

<p>基礎的な仕組み</p>	<p>➤ 森林の回収した二酸化炭素の半分が地面に貯留されるというのが地面が貯留できる二酸化炭素の量に限りはないのか。(西岡)</p> <p>日本の土、木、ぜんぶ測るということはできないので、実際二酸化炭素がどこから出てるか、どう測るのかというのはかなり難しいこと。データとしてはどれだけ材木があって売れるかという情報しかなくて二酸化炭素に着目した量は計っていない。先ほど二酸化炭素の「半分」が地面に貯留されるといったが、厳密には場所によって、土壌によって貯留される量、吸収率は異なる。</p> <p>➤ 西岡さんへ 大磯のエリアに限定すれば、CO<sub>2</sub>吸収と排出の量は、どう推定できるか?趣旨: 温暖化は都市問題(都市が温室効果ガスを大量に排出していて、ほかの地域に不利益を与えている)という認識をしているがどうか。(西岡)</p> <p>大磯限定の推定について、本日の情報提供の資料の中に、日本の吸収量の測定の仕方をした伊藤氏の情報がのった URL を記載している。伊藤氏は、モデルを使用し、日本を1キロでわけて、雨の降り方や条件もすべて入れて、どれくらい吸収しているかを分析している。この方法であれば大磯の量も調べられると推察される。依頼をすれば、伊藤氏が大磯のデータを調べてくれるかもしれない。</p> <p>➤ 二酸化炭素を都会が排出し放題で経済的な利益を得て、大磯が吸収している、より吸収しようとする力を入れているという状況が大磯にとって不利益では?という問題については、将来的にもしどれだけ吸収しているかはっきり見えれば、取引をすることができる。こちらはこんなに吸収しているから、その分を買わないか?ということ都市と交渉したりすることはできる。</p>
<p>森林保全</p>	<p>➤ オダギリさんに C、D、E ルートの進み具合を教えてください。(オダギリ)</p> <p>Cルート:上天山(かみそろやま)の尾根道、大磯学園と隣接していて、手を入れないでほしいといわれているので手を付けていない。神様が歩いた道だと思うので、どうにか進められたらと思うてる。方法はまだわからない。</p> <p>Dルート:草の奥の観音寺から上がっていく道。登ってみたが、ただの崖のようでどうしたらいいかまだその状態。</p> <p>Eルート:美化センターの下の石神台(いしかみだい)から虫窪に行く道(新幹線をくぐる道)。地図上で見たのみで、実際にまだ確認してない。</p>
<p>ブルーカーボン</p>	<p>➤ ブルーカーボンは、水深何メートルくらいまで吸収可能なのか。(松浦)</p> <p>場所によって環境が異なるので、水深何メートルとは具体的に言えないが、光が届く深さであることが大事。深くなると光が届かず、藻が少なくなる。そこで育っている限りは二酸化炭素を吸収して、自分の栄養にして育っている。現在藻があるところならブルーカーボンになりうるといえる。</p> <p>➤ 藻場が再生されると、同時に昔あった「台風のと海藻が打ち上げられると臭くて洗濯物にもにおいが移って大変」等の苦情が出てしまうのでは?(松浦)</p> <p>台風の後の海藻の問題について、実際鎌倉などでは現在も台風後に藻が打ち上げられたりしているが、神奈川海岸美化財団が定期的に清掃を行っている。もし大磯にも同じような状況が発生すれば、美化財団が清掃を行う。海藻の処理については、焼却炉には持って行かず、海岸に穴を掘って埋める方法で処理を行っている。</p> <p>➤ 藻場っていう最小の広さ(面積)はどのぐらいのイメージか?リビエラの早熟カジメ、ロープで育てる方法なら、大磯もマネできそう。最小、ロープ1本?100本?どのぐらい?(松浦)</p> <p>最小面積というものはないが、小さいものからだんだん育っていく。リビエラについて実証実験</p>

であればロープ1本からできる。何本までできるかという点についていうと、栈橋から吊るすのであればその橋の長さによって変わる、また漁船の運航に影響が出ない範囲を漁業組合と話し合いを行ったりする必要がある。費用についても、そういった状況を踏まえて決まるものなので、どのくらいかかるかという具体的な数字は現状では言えない。

➤ 照ヶ崎海岸から藻場が消えた原因は何ですか？(松浦)

照ヶ崎海岸限定で調査をしていないため正確には言えないが、神奈川県全体における藻場が消えた要因は複合的なもの。1つは、海流が変わり波の強さが変化し、海藻などがさらわれてしまったこと。一番大きな要因と言われているのは、地球温暖化の要因で海水温が上がったことによるもの。昔は、海水温が下がる冬の間は海藻の外敵となる魚が活動をしないため、その期間は海藻が増えたり成長していた。しかし今は冬でも海水温が高いため、魚が一年中活動的に海藻を食べていて、芽が出てもすぐ食べてしまう。それが消滅の原因と言われている。

#### (6) グループ対話⑤ 分野別グループ対話(移動・吸収源)

休憩をはさんで、「移動」分野3、「吸収源」分野2グループ、合計5グループでグループ討議⑤を実施。午前中と同じくグループファシリテーターの進行で、グループ対話⑤で、優先テーマ(そのグループで最初に取り上げるテーマ等)に関する、「町民」「地域」「行政」の取組みについて議論し、内容を付箋に記入し模造紙に整理した。

#### (7) グループ対話⑥ 分野別グループ対話(移動・吸収源)

グループ対話⑥では、グループ対話⑤と同グループで、優先テーマ以外のテーマ1~2つについて、「町民」「地域」「行政」の取組みを検討、付箋に書き模造紙にまとめた。

#### (8) 全体共有(回遊形式)

グループ対話②③、⑤⑥の結果をまとめた10枚の模造紙を、各テーブルに配架または掲示し、参加者は個々に見て回った。

#### (9) チェックアウト

グループ内で今回の会議の感想を伝え合い、チェックアウトとした。

#### (10) 第5回会議について

第5回の町民会議についての詳細が伝えられた。

日時:11月30日(日)13:00~16:30

場所:大磯町保健センター研修室

また、それに先立ち11月19日(水)に、有志による「町民提案(たたき台)」の確認作業・意見交換をオンラインで開催することが伝えられた。

#### (11) 第4回アンケート、閉会

参加者は今回の会議を終えた感想をアンケートに記入し提出した。

終了から16:30までは希望者が会場に残り、歓談する時間が設けられた。